

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	愛媛県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	御荘町立中浦小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	10
児童数	16	11	6	9	7	10	0	59	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を身に付け、主体的に問題解決に取り組む児童の育成 - 個に応じた学習指導と評価をとおして -
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全校児童・算数 (算数科は「確かな学力」の中でも、「自己学習力」を育てる側面を担っている教科であるため)

(2) 年次ごとの計画

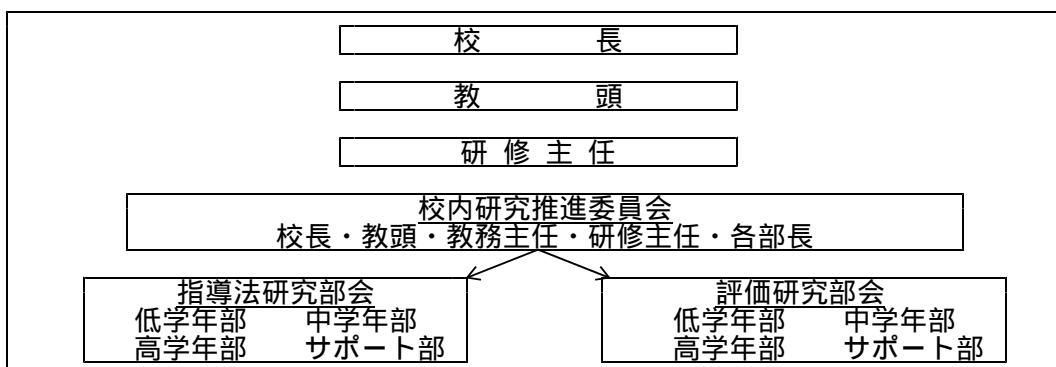
平成14年度	<p>テーマ 確かな学力を身に付け、主体的に問題解決に取り組む児童の育成 - 個に応じた学習指導と評価をとおして -</p> <p>研究の見通し ア 個に応じたきめ細かな指導を行うことで、児童一人一人に、主体的に学習活動にかかわり問題を解決することのできる力を育成し、確かな学力を身に付けさせることができるであろう。 イ 個に応じたきめ細かな評価を行うことで、一人一人が、自己の学習を振り返り、成果を確認し、新たな問題の解決に主体的に取り組むことができるであろう。</p> <p>研究内容・方法 ア 指導法研究...個に応じたきめ細かな指導方法・指導体制のあり方 (ア) 自己選択による発展的・補足的な学習 (イ) 個の考えを生かした問題解決的な学習 (ウ) 家庭との連携 イ 評価研究...指導に生きる適切な評価のあり方 (ア) 児童のよさや可能性を伸ばすための評価 (イ) 基礎・基本の徹底を図り、指導に生かすための絶対評価 (ウ) 自ら学び、自ら考える力を育てる評価 ウ 研究方法 (ア) 指導法研究部会においては、指導方法や指導体制のあり方の研究をすすめ、授業研究を中心に研究の評価をしていく。 (イ) 評価研究部会においては、一人一人の学習指導の過程や成果について継続的、総合的に把握した、適切な評価のあり方を研究する。また、評価について家庭の理解を図りながら、連携を深めていく。 (ウ) 指導法研究部会と評価研究部会が、常に連携を取り合いながら、指導に生きる評価の研究、評価を生かす指導の研究を積み重ねていく。</p>
--------	--

テーマ 確かな学力を身に付け、主体的に問題解決に取り組む児童の育成

平成 15 年度	- 個に応じた学習指導と評価をとおして -
	<p>研究の見通し</p> <p>ア 個に応じたきめ細かな指導を行うことで、児童一人一人に、主体的に学習活動にかかわり問題を解決することのできる力を育成し、確かな学力を身に付けさせることができるであろう。</p> <p>イ 個に応じたきめ細かな評価を行うことで、一人一人が、自己の学習を振り返り、成果を確認し、新たな問題の解決に主体的に取り組むことができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>ア 指導法研究...個に応じたきめ細かな指導方法・指導体制のあり方</p> <p>(ア) 個の考えを生かした問題解決的な学習の展開</p> <p>(イ) 学びの楽しさを味わう算数的活動</p> <p>(ウ) 可能性を伸ばすためのコース別学習</p> <p>(エ) 家庭との連携</p> <p>イ 評価研究...指導に生きる適切な評価のあり方</p> <p>(ア) 基礎・基本の徹底を図り、指導に生かすための目標に準拠した評価のあり方</p> <p>(イ) 個のよさや可能性を伸ばすための評価のあり方</p> <p>(ウ) 指導と評価の一体化</p> <p>ウ 研究方法</p> <p>(ア) 指導法研究部会においては、指導方法や指導体制のあり方の研究をすすめ、授業研究を中心に研究の評価をしていく。</p> <p>(イ) 評価研究部会においては、一人一人の学習指導の過程や成果について継続的、総合的に把握した、適切な評価のあり方を研究する。また、評価について家庭の理解を図りながら、連携を深めていく。</p> <p>(ウ) 指導法研究部会と評価研究部会が、常に連携を取り合いながら、指導に生きる評価の研究、評価を生かす指導の研究を積み重ねていく。</p>

平成 16 年度	<p>テーマ</p> <p>確かな学力を身に付け、主体的に問題解決に取り組む児童の育成 - 個に応じた学習指導と評価をとおして -</p> <p>研究の見通し</p> <p>ア 個に応じたきめ細かな指導を行うことで、児童一人一人に、主体的に学習活動にかかわり問題を解決することのできる力を育成し、確かな学力を身に付けさせることができるであろう。</p> <p>イ 個に応じたきめ細かな評価を行うことで、一人一人が、自己の学習を振り返り、成果を確認し、新たな問題の解決に主体的に取り組むことができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>ア 指導法研究...個に応じたきめ細かな指導方法・指導体制のあり方</p> <p>(ア) 個の考えを生かした問題解決的な学習の展開</p> <p>(イ) 学びの楽しさを味わう算数的活動</p> <p>(ウ) 可能性を伸ばすためのコース別学習</p> <p>(エ) 家庭との連携</p> <p>イ 評価研究...指導に生きる適切な評価のあり方</p> <p>(ア) 基礎・基本の徹底を図り、指導に生かすための目標に準拠した評価のあり方</p> <p>(イ) 個のよさや可能性を伸ばすための評価のあり方</p> <p>(ウ) 指導と評価の一体化</p> <p>ウ 研究方法</p> <p>(ア) 指導法研究部会においては、指導方法や指導体制のあり方の研究をすすめ、授業研究を中心に研究の評価をしていく。</p> <p>(イ) 評価研究部会においては、一人一人の学習指導の過程や成果について継続的、総合的に把握した、適切な評価のあり方を研究する。また、評価について家庭の理解を図りながら、連携を深めていく。</p> <p>(ウ) 指導法研究部会と評価研究部会が、常に連携を取り合いながら、指導に生きる評価の研究、評価を生かす指導の研究を積み重ねていく。</p>
----------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- (1) 個に応じたきめ細かな指導方法・指導体制のあり方
- ア 個の考えを生かした問題解決的な学習の展開
一人一人が学習課題に主体的にかかわり、学ぶ楽しさを感じる児童が増えてきている。個に応じた支援により、高学年児童の自力解決の力は徐々に伸びてきている。低・中学年の児童は、多様な考えを出し合って集団検討で高めあっていくことの楽しさや充実感を味わうことができるようになり、コミュニケーション能力がつきつつある。
- イ 学びの楽しさを味わう算数的活動
子どもを活動の中心に据えた授業の改善ができ、わかる喜びや学ぶ楽しさを味わうことのできた児童が増えた。また、算数の学習を日常生活に生かすことができるようになってきている。
- ウ 可能性を伸ばすためのコース別学習
児童は自分の実態に合った課題を選択し、めあてを達成しようと取り組むようになってきている。そして、繰り返しの学習や理解が不十分なことの集中学習により、それぞれ満足感をもち、算数好きが増えた。さらに、自主勉強への意欲につながる児童もいた。
- エ 家庭との連携
算数だより「とびうお」の配布で、保護者の「学力向上」への意識が高まり、子どもの家庭学習の習慣づけや学校で学習したことの生活化を心がける家庭が増えた。
- (2) 指導に生きる適切な評価のあり方
- ア 基礎・基本の徹底を図り、指導に生かすための目標に準拠した評価のあり方
研究授業を通して個々の教師の評価力を高める研修を行うことで、教師の評価観を見直したり、児童一人一人のよさや可能性を見いだそうとしたりすることができた。
- イ 個のよさや可能性を伸ばすための評価のあり方
- (ア) 学級カルテと個人カルテの作成（CRTテストによる児童の実態調査）
H14年度始めに、学級の実態や児童一人一人の実態を把握し指導に役立てるために、1年生を除く全学年で前学年のCRTテストを実施し、学級カルテと個人カルテを作成した。年度末には該当学年のCRTテストを実施してカルテを作成し、1年間の個の伸びや学級の実態を考察した。個々の実態がしっかり把握でき、伸びも見えてくるようになってきた。個々の児童や集団の変容を見てみると、「関心・意欲・態度」「数学的な考え方」といった単元ごとのテストではに表れにくい観点伸びている児童が多い。
(資料1)(資料2) CRTテストは、H15年度、16年度末にも実施し、3年間の変容を見るようにしている。
- (イ) 自己学習力を高める「算数のびっこカード」
自己評価カードにより、児童は自分の学習を振り返り、自分のよさに自信をもち、意欲的に学ぼうとする姿が見られるようになった。
- (ロ) 児童のよさや可能性を保護者に伝える「算数のびっこ通信」
「のびっこ通信」は、教師が児童の実態を把握し、授業の成果を振り返るのに役立った。さらに、新しい評価観が少しずつ家庭へ浸透し、家庭との連携を図りながら児童を支援することができてきた。
- ウ 指導と評価の一体化

日々の評価記録の積み重ねや単元ごとの「のびっこ通信」、個人カルテ等で常に指導に生きる評価、評価を生かす指導を心がけてきたことで、個々の実態がしっかり把握でき、伸びも見えてくるようになってきた。
 (資料1 学級集団の変容事例... H14年度5年生)

のびっこ学級カルテ(算数)

1学期始 5年

☆ 学年の目標

- 小数及び分数の意味や表し方についての理解を深める。また、小数の乗法及び除法の意味について理解し、それらの計算の仕方考え、適切に用いることができるようにするとともに、分数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方考え、用いることができるようにする。
- 面積の求め方についての理解を深めるとともに、基本的な平面図形の面積を求めることができるようにする。
- 図形を構成要素及びそれらの位置関係に着目して考察し、基本的な平面図形についての理解を深めることができるようにする。
- 百分率や円グラフを用いるなど、統計的に考察することができるようにするとともに、数量の関係を式で表したり、式をよんだり、その関係を調べたりすることができるようにする。

☆ のびっこパワーのバランスチェック

所見

全体的に「数学的な考え方」が弱い。例えば、ものを数で表すこと(数直線・図表)はできるが、高次元のもの(数の関係を求めること)「数学的な考え方」は困難な場合や、文脈問題等について式に表すことに問題がある場合が多い。数直線や円グラフを用いた活動を多く取り入れる必要がある。また、分数の意味や面積の単位の意味の理解や、図形結合(1)を用いた計算が定着していないため、再度指導していきたい。

のびっこ学級カルテ(算数)

学年末 5年

☆ 学年の目標

- 小数及び分数の意味や表し方についての理解を深める。また、小数の乗法及び除法の意味について理解し、それらの計算の仕方考え、適切に用いることができるようにするとともに、分数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方考え、用いることができるようにする。
- 面積の求め方についての理解を深めるとともに、基本的な平面図形の面積を求めることができるようにする。
- 図形を構成要素及びそれらの位置関係に着目して考察し、基本的な平面図形についての理解を深めることができるようにする。
- 百分率や円グラフを用いるなど、統計的に考察することができるようにするとともに、数量の関係を式で表したり、式をよんだり、その関係を調べたりすることができるようにする。

☆ のびっこパワーのバランスチェック

所見

学習に対する意欲があり、4観点ともにバランスよく力をつけてきている。観点別にみると、知識・理解、表現・処理に比べ、数学的な考え方がやや弱いが、作業的・機械的な解法活動が多く取り入れたことで、計算事項を活用しながら着力で解決しようとしたり、熟慮を立てながら説明しようとしたりするなど力がついてきた。学習全体では、割合の比べる量、基にする量のとらえ間違い、平行四辺形、三角形の面積の応用問題などでつまづきが見られる。今後も算数的活動を多く取り入れ、数や図形に対する豊かな感覚を育てたい。

(資料2 個人の変容事例... H14年度3年A児)

のびっこカルテ(算数)

1学期始 3年(名前)

☆ 第3学年の目標

- 加法及び減法を適切に用いることができるようにするとともに、乗法についての理解を深め、適切に用いることができるようにする。また、除法の意味について理解し、その計算の仕方考え、用いることができるようにする。
- かさ、重さや時間などの単位や測定について理解できるようにする。
- 図形を構成する要素に着目して、基本的な図形について理解できるようにする。
- 資料を整理して表やグラフに表したり用いたりすることができるようにし、それらの有用さが分かるようにする。

☆ のびっこパワーのバランスチェック

所見

まじめに学習に取り組み、とてもよい学習態度である。学習したことを自分のものとして、力を付けてきている。観点で見ると、「数学的な考え方」の力が弱くなっている。立式の際につまづきが見られることがあるので、問題をよく読んだり意味を把握してから式を立てていくよう指導したい。また、授業では、発展的な学習にチャレンジさせたい。

のびっこカルテ(算数)

学年末 3年(名前)

☆ 第3学年の目標

- 加法及び減法を適切に用いることができるようにするとともに、乗法についての理解を深め、適切に用いることができるようにする。また、除法の意味について理解し、その計算の仕方考え、用いることができるようにする。
- かさ、重さや時間などの単位や測定について理解できるようにする。
- 図形を構成する要素に着目して、基本的な図形について理解できるようにする。
- 資料を整理して表やグラフに表したり用いたりすることができるようにし、それらの有用さが分かるようにする。

☆ のびっこパワーのバランスチェック

所見

6月の〇〇テストと比較して「関心・意欲・態度」「数学的な考え方」の力が伸びている。授業中に自分から発言していることが減ってはいるが、また、自分のわからないことがあっても今は我慢して待つ。授業、宿題に考え込むことが多くなって、深く考え込む場面が多くなった。しかし、ほとんどをその授業内で解決して、習った内容を後で復習したりすることができた。

2. 今後の課題

- 個に応じたきめ細かな指導方法・指導体制のあり方
 - ア 問題解決的な学習における自力解決への支援のあり方をさらに工夫する。
 - イ 集団解決の場での練り合いの充実を図る。
 - ウ 算数的活動の工夫と活動の蓄積を行う。
 - エ 発展的・補充的な学習活動の蓄積を行う。
 - オ 学習意欲を高めるための家庭学習への支援を充実させる。
- 指導に生きる適切な評価のあり方

